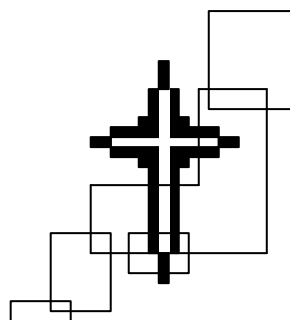


日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう
ニュースレター5月号
2001年4月22日発行



日本のためのとりなしの会

*事務局：〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方

TEL042-747-5703, FAX042-746-2119

URL: <http://www.Christ-ch.or.jp/>

電子メール: otoiawase@christ-ch.or.jp

*振替：00270-7-6421

*委員：(長)皆川 尚一(神奈川県)

友納 徳治(福岡県)

手束 正昭(兵庫県)

林田 金弥(神奈川県)

行澤 一人(大阪府)

久保 有政(埼玉県)

裁かれるのは誰か

- 従軍慰安婦連行のウソ -

ヨハネ 皆川尚一

「女たちはシオンで犯され、おとめたちはユダの町々で汚された」(哀歌 5:11)

やめろ、トム

「ヘイ、ジョン、日本の女はすぐに泣き叫ぶんだ。イツァーイ！ イツァーイ！ ってなあ。」

「やめろ、トム。そんな話は聞きたくない。君はクリスチャンのくせに、そんなことをしゃべって恥ずかしくないのか？」

「ガッデム(God damn)(くそっ!)！ サナバビッチ(Son of a bitch)(畜生!)」と叫ぶと、トムはいきなりわたしの首をしめに来ました。私は彼の両手首を握って防ぎながら祈りました。

「オー ジーザス！ ...プリーズ...フォーギブ(赦して)...ヒム」

「ガッデム！ ジーザス・クライスト(クソ！ いまいましい)」

トムは私の首から手を離してどこかに行っ てしまいました。

それは1946年、終戦の翌年、横須賀米軍基

地の士官クラブのバーでの出来事でした。日本人の三分の一は飢えて死ぬだろうと言われていたあの頃、私の一家も飢えに直面したのです。やむなく大学(カレッジ)を休学して、家族四人を養うために私が米軍基地に飛び込み、士官クラブのバーのボーイになりました。トムはバーテンをつとめる海兵隊員でカトリックのクリスチャンでした。当時は一般的にカトリックとプロテスタントは互いに異端呼ばわりして排斥しあっていましたが、トムと私は同じクリスチャン同士だということで直ぐに友達になりました。しかし、このショッキングな事件のあと間もなく幸運にも私は七人の素晴らしい青年士官たちを世話するルームボーイとして配置転換されたので、トムとの関わりはそれきりになったのです。

マッカーサーの命令

1945年8月15日、昭和天皇の終戦の詔勅によって戦争が終わりました。占領軍は、先ず先遣隊2300人が8月28日神奈川県厚木に到着。次にマッカーサー元帥が8月30日に到着。更に半月の間に約12万人。10月末には約30万人の将兵が進駐しています。

日本政府はどのようにして占領軍を迎えたらよいか全く予測のできない状況の中で、米軍から次々に出される命令に対応してきました。東京では8月28日に内務省や警視總監了

解の下に売春業者たちによって「RAA」（特殊慰安施設協会）が設立され、最初の慰安所「小町園」が大森に開設されました。そこに集められた慰安婦は約30人でした。

*RAA (Recreation and Amusement Association)

慰安婦たちは、「お国のために日本女性を守る性の防波堤」になるという悲壮な決意の下に、RAA 幹部たちが発する涙のバンザイの連呼に送られてトラックで小町園に到着しました。最初の「お客」（米兵）は早くも28日の夜現れたそうです。

しかしながら、これは十分な性の防波堤にはなりません。占領軍が進駐した地域では慰安所があっても米兵によるレイプ事件が8月30日から頻繁に起りはじめました。基地周辺の家々は軒並み米兵に踏み込まれて、男たちは縛られるかピストルを突きつけられる間に女たちがレイプされるのです。白昼公道において婦人牧師が押し倒されて公衆の前でレイプされましたが、だれも助けようとする人はなく、みな足早やに逃げ去ったこともあります。道を歩いている娘や人妻たちを後ろからジープが来て拉致して、淋しいところでレイプした例も少なからず発生しました。昼も夜もそれは起りました。米軍基地に勤務する女性たちは基地の内部でも外部でも目をつけられて頻繁に辱められました。私の場合と同じように家族を餓死から救うために勤務を辞めることができず、耐え忍んでいました。

こうしたレイプ事件の頻発に対してMP(Military Police)とかSP(Shore Patrol)とかいう米軍の憲兵たちは見て見ぬふりをしていたし、彼ら自身がレイプする有様なので、取り締まることが出来ませんでした。日本の警察官は戦後全く無力な状態で全く頼りにならず、彼らの中には米兵の手引きをしてレイプの手伝いをする者もいました。そして、こうした事件の数々は9月はじめまではいくつか新聞記事として報じられましたが、間もなくプレスコードが発令されて報道禁止となりました。だから、「米軍の日本進駐はきわめて紳士的に行われた」というのは占領軍のご機嫌を伺う神話に過ぎません。

このような状況下で、GHQ（連合軍総司令部：General Head Quarters）は9月はじめに連合軍用慰安施設の設置を命令し、全国各地に慰安所が売春業者(RAA)によって開設されていきました。占領期間中は、「GHQの命により」とか「ジェネラル・マッカーサーの命により」とかいう文言は一種のマジックのような絶対的権威があって、絶対服従しなければならないものでした。

しかし、この命令も半年で撤回されたのです。その原因は米軍将兵が南方の戦場から持って来た性病が慰安婦たちに感染し、手のつけられないほど蔓延したからです。

GHQから「公娼廃止に関する覚書」が出され、第八軍司令部は「一切の公娼、私娼の家々への立ち入り禁止令」を米軍将兵に向かって発しました。その結果、全国の慰安所は消滅していきました。

パンパンは増える

慰安所は廃止されても私娼が廃止されたわけではありません。慰安婦たちはパンパンと呼ばれる私娼の群れの中に入って行きました。パンパンとはインドネシア語で「女」を意味する「プロムパン」のなまったものではないかといわれています。パンパンにも二種類あって、特定の軍人を相手にするオンリーと不特定多数の軍人を相手にするバタフライとがありました。彼らはみな例外なく精神的にも肉体的にも病んで、虐げられて、短期間で死を迎えるのですが、後から後から身をもちくずしてパンパンになる人たちが絶え間なく補充されていったのは、その大多数が占領軍兵士による暴行の結果だといわれています。

*（「日本の貞操」 - 外国兵に犯された女性たちの手記 - 水野浩編 1953年 蒼樹社刊 参照）

この本は、1952年に対日講和条約が結ばれ、GHQが廃止され、連合軍の日本占領が終わった翌年に、やっと発行されたものです。

裁かれるのは誰か

以上の説明でお分かりのように、GHQ自身

が戦争の終わったあと日本において、日本政府に慰安所の設置を命令したのです。GHQの命令は絶対でした。従ってGHQは組織的、強制的に性奴隷制を占領下の日本に実施したことになります。更に、戦場においてではなく、既に戦争の終わった日本国土において無差別のレイプを取り締まることなく野放しにした責任も重大です。日本女性はGHQの絶対的強圧の下で誰にも守られるすべもなく自分が生きるための性的奴隷生活をパンパンという形で強いられたのです。

先頃、東京で開催された国際女性戦犯法廷では、1946年の東京裁判で裁かれなかった昭和天皇を断罪するのに、「昭和天皇が女性に対する強姦と性奴隷制からなる人道に対する罪を犯した」と宣言しました。これはそのまま米国にあてはめることができます。「トルーマン大統領は女性に対する強姦と性奴隷制及び広島・長崎に対する原爆投下と日本の主要都市に対する無差別じゅうたん爆撃のホロコーストに基づく人道に対する罪を犯した」と、オランダ国ハーグの悪名高き国際戦犯法廷で断罪したらどうでしょうか。

連合国が東京裁判で日本軍の慰安婦やレイプ問題を裁くことができなかつたのは当然です。なぜなら彼らも同じようなことをやってきたのですから。そして、これからも同じようなことをやっていくであろうことが自明ですから（それが人間の罪の実相です）、日本だけを裁くことができないのです。

「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」（ヨハネ 8:7）

とイエス・キリスト様は言われました。

「では、罪のない女性こそ、罪のある男性を裁く権利があるはずだ」という強い主張をもって、天皇制軍国主義を断罪しようとする女性たちが立ち上がったようです。その正義感には理解できますが、そのような単純思考だけでは根拠のある正しい裁判は到底できません。

慰安婦強制連行のウソ

(1) 日本ではじめて「従軍慰安婦」を戦争犯罪として世に広めたのが、千田夏

光著「従軍慰安婦」（1973年）および「続・従軍慰安婦」（1974年）です。この本では、千田氏が「挺身隊」として動員された朝鮮人女性20万人のうち、5~7万人が慰安婦にさせられたと書いています。しかし「挺身隊」とは軍需工場などへ勤労働員された者のことで「慰安婦」とは全く別のものです。また、挺身隊員で慰安婦になれと強制された例は一つも確認されていません。これは朝鮮の反日運動家が「挺身隊で連れて行かれる者は慰安婦にさせられる」というデマを流したのを、千田氏がろくに検証もせずに書いてしまったようです。

(2) 次に発行されたインチキ本は「私の戦争犯罪 - 朝鮮人連行 -」吉田清治著（1983年）です。この本で吉田氏は韓国済州島で慰安婦にするための女性狩りを度々行ったと告白した上、日本・韓国およびアメリカなどで謝罪講演をして廻りました。

しかし、千葉大学教授の秦郁彦氏が済州島に行って実際に調査したところ、吉田氏が慰安婦にするための女性を1000人近く徴用したとう事実はないことが判明しました。それに現地の新聞がすでに「吉田証言に該当する事実はない」と報道していたのです。

韓国政府も国際人権委員会も吉田証言を引用して報告書を書いていますが、それは日本の朝日新聞が吉田証言をとりあげて、これを権威付けたからです。

しかし、今日では、吉田証言は全くの嘘であることが証明されて、本人もフィクション（作り話）であることを認めています。

(3) 1989年大分市の青柳敦子氏と在日朝鮮人の宋斗会氏という二人の反日運動家が「慰安婦に日本国家が謝罪と補償をする運動」を起こしました。そして原告を100人と被害者を募集しはじめたわけです。

(4) 1990年韓国梨花大学教授尹貞玉氏は

吉田証言を事実と信じ込み、挺身隊と慰安婦を同一視しました。そして日本兵 29 人に対し、慰安婦 1 人（ニクイチ）のごろ合わせを用いて、慰安婦の数は朝鮮人だけで 17 万人から 20 万人いたと換算しています。大学教授であっても反日とか反体制とかいうイデオロギーに捕らわれると巧みなこじつけをするのは、韓国でも日本でも同じです。

- (5) 1991 年 4 月にはソウルの日本大使館が尹氏を呼び、「強制連行の証拠はない」と伝えて韓国挺身隊協議会からの六項目の要求を拒否しました。その六項目とは下記です。

強制連行を認める
公式謝罪する
蛮行の全てを自ら明らかにする
慰霊碑を建てる
補償をする
歴史教育で語り続ける

- (6) 1991 年から朝日新聞は従軍慰安婦強制連行に関する一大キャンペーンを開始しました。初めの証言者となった金学順という朝鮮人慰安婦は日本軍に強制連行されたと報ぜられましたが、本人が日本に来て証言したところによれば、14 歳の時、家が貧しかったのでキーセンハウスに売られ、17 歳になったとき、キーセンハウスの経営者である義父に日本軍の慰安所につれて行かれたことが分かりました。しかし朝日新聞はこれについての訂正記事を出していません。まだ前出の吉田清治の嘘の証言も真実として報道しました。更に宮澤首相訪韓の時に合わせて「挺身隊の名で連行された慰安婦の数は 8 万人とも 20 万人とも言われる」という嘘の解説を載せました。その結果、1992 年 1 月宮澤首相は韓国でこの件について謝罪せざるを得ないようになりました。また、その後も河野官房長官談話でこれを追認した形になりました。この二人の日本高官の行った軽率な謝罪が国連に対す

るクマラワスワミ女史（スリランカ）の「日本軍性的奴隷問題に関する報告書」の中で、日本政府がその犯罪を認めたとされることになったのです。

- (7) 1992 年 1 月 14 日、韓国ではマスコミが一斉に「小学生までが慰安婦にさせられた！」というショッキングなニュースを流しました。ところがこれがまた大言誤報で、真相は女子児童が挺身隊として勤労働員されたというだけの話だったのです。つまり挺身隊＝慰安婦というデマを信じたマスコミの判断であったのです。
- (8) 1992 年 11 月中央大学教授吉見義明編「従軍慰安婦資料集」が刊行されましたが、その中に「強制連行」を示す資料は一つもありませんでした。その本の解説の中で吉見教授は「一般には、強制連行というと人狩りの場合しか想定しない日本人が多いが、これは狭義の強制連行であり、詐欺などを含む広義の強制連行の問題をも深刻に考えてしかるべきであろう」と述べています。この人はこれまで「強制連行はあった」と論じてきたのに、色々調べていった末、それを裏付ける資料がないことが分かると論点をすり換えて「広義の強制連行」を考えるべきだなどと言い始めました。また「政府が資料を隠しているのかもしれないから、それが出てきたら事情が変わってくる」と暗示しているのも学者らしい狡さを見せつけられます。
- (9) 1997 年 1 月 3 日の「朝まで生テレビ」に出演した吉見義明教授は、「植民地での奴隷狩りの強制連行は確認されていない」と、および「挺身隊が慰安婦にさせられた例も確認されていない」ことを認めました。これは日本政府の 5 年前に調査した公式発表と一致するものです。

従って、従軍慰安婦強制連行問題は、議論が出つくして、調査もしつくして決着していると言わねばなりません。

結論

本来、主権国家同士の間で決着した事柄をむし返して、グローバリズムの波に乗った国際戦犯法廷などを開くこと自体が国家の主権を否定するものです。「慰安婦の人権を守れ」と言って賠償を求めることによって慰安婦の人権を踏みにじる事になるのがなぜ分からないのでしょうか。裏付けのない一方的な個人証言をいくら集めても裁判にはなじみません。

むしろ、それらの証言を一つにまとめて神の祭壇のたきぎの上に積み上げ、炎と共に天の法廷に昇らせた方がましでしょう。

「事の帰する所はすべて言われた。すなわち、神を畏れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばられるからでる」(伝道の書 12:13~14)。

アーメン

【参考資料】

- (1)「文明は厳かに裁く」「アサビグラフ」(東京裁判特集)1946年6月25日 朝日新聞社刊
- (2)「東京裁判 日本の弁明」(「却下未提出弁護側資料」抜粋)小堀桂一郎編 講談社学術文庫 講談社刊
- (3)日本軍性奴隷制を裁く「女性国際戦犯法廷」東京 2000年
- (4)12月8~12日 国際実行委員会編集発行 付属資料「認定の概要」世界 2001年3月号 P.232-240 岩波書店刊
- (5)「従軍慰安婦」吉見義明著 岩波新書 岩波書店刊
- (6)「慰安婦たちの太平洋戦争」山田盟子著 光人社NF文庫 光人社
- (7)授業「従軍慰安婦」川田文子編著 教育資料出版会刊
- (8)「時効無き戦争責任」アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆 法廷準備会編 緑風出版刊
- (9)「天皇の戦争責任」加藤典洋、橋爪大三郎、竹田青嗣共著 径書房刊
- (10)「日本人に謝りたい」(あるユダヤ人の懺悔)モルデカイ・モーゼ著 久保田政男訳 日新報道刊
- (11)「女性国債戦犯法廷の愚かしさ」桑原聡 「正論」平成13年2月号 P.120-127 産経新聞社刊
- (12)「国際戦犯模擬法廷 - 聴きたい者のみ聴く裁判」千野境子 産経新聞 平成13年12月20日朝刊
- (13)「従軍慰安婦強制連行のウソを認めない朝日新聞の偽善報道」週刊新潮 1997年4月17日号 P.36-40
- (14)従軍慰安婦問題「歪められた私の論旨」- 誤認と誤断に満ちた国連の報告書に異議あり - 秦郁彦 (千葉大学教授) 文藝春秋 1996年5月号 P.188-198
- (15)「現代史の争点」秦郁彦著 文藝春秋刊
- (16)「汚辱の近現代史」藤岡信勝著 徳間書店
- (17)従軍慰安婦と「女性基金」問題 「韓国マスコミは伝えたか」総谷智雄(かせたに ともお)「論座」1998年11月号 P.34-41 朝日新聞社刊
- (18)「『慰安婦と731部隊』合体の仕掛人」秦郁彦 「償い金を受けた韓国元慰安婦の本音」黒田勝弘 「諸君」1997年3月号 P.44-53、P.94-101 文藝春秋社刊
- (19)「『アジア女性基金』に巣喰う白アリたち」秦郁彦 「諸君」1999年2月号 P.178-191 文藝春秋社刊
- (20)「戦争責任と戦後補償」四者討論 坂本多加雄 秦郁彦 半藤一利 保阪正康 「諸君」2000年2月号 P.144-122 文藝春秋社刊
- (21)「女性の権利・人権」「現代用語の基礎知識1998」 P.869-871 自由国民社刊

- (22) 「女性に対する暴力」 「現代用語の基礎知識 2001」 P.1006-1007 自由国民社刊
 (23) 「新ゴーマニズム宣言 3」 小林よしのり著 小学館刊
 (24) 「新ゴーマニズム宣言 4」 小林よしのり著 小学館刊
 (25) 「続・従軍慰安婦」 千田夏光著 双葉社刊
 (26) 「GHQ 日本占領史 序説」 <解説> 竹前栄治 <訳> 竹前栄治 / 今泉真理 日本図書センター刊
 (27) 「日本占領 vol.1」 小島襄著 文藝春秋社刊
 (28) 「日本の貞操」 - 外国兵たちに犯された女性たちの手記 - 永野浩編 蒼樹社刊
 (29) 「おんなの戦後史」 もろさわようこ著 未来社刊

地域別とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
 〒001-0032
 札幌市北区北 32 条西 5-3-27
 TEL 011-717-1801 毎月第 2 日曜日午後 2 時

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
 〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ
 TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷲谷世嗣兄
 〒335-0003 蕨市南町 3-3-12
 TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
 * 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)
 * 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師
 TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 3 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉
 * 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)
 * 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉
 TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎週第 1・第 3 月曜日午後 6 時 30 分

5. 神奈川県

横浜市 : 聖書とお茶の会 吉田久子姉
 〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方
 TEL 045-363-5657
 毎週金曜日午後 2 時
 相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
 〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17
 TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
 URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>

Email otoiawase@christ-ch.or.jp

毎月第2水曜日午後7時15分、毎月第2木曜日午前10時15分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後7時30分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師
〒420-0841 静岡市上足洗4丁目6-16-7
TEL 054-248-4058 毎月第1日曜日午後2時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・イヴァ・フランシス・チェレギーノ
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館5F
TEL 075-241-3867 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

9. 大阪府

寝屋川市 : 日之出キリスト教会 滝本千歳牧師
〒572-0835 寝屋川市中木田町26-9
TEL&FAX 0720-22-9232 毎月第3木曜日午後2時

10. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師
〒676-0015 高砂市荒井町紙町1-34
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

11. 福岡県

福岡市内 : 福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師
〒811-1344 福岡市南区三宅3-33-1
TEL 092-561-4232 毎朝午前5時00分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻12-4-1
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

12. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師
〒874-0933 別府市野口元町10-1
TEL & FAX 0977-26-3692
e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp
毎週金曜日午後7時30分

13. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師
〒900-0031 那覇市若狭2丁目9-5 毎週土曜日午後6時
TEL 098-868-5641

2001年5月号祈りの焦点

(1) 継続的課題

1) カルト集団である創価学会の日本国の政治に対する支配力が急速に減少するように。

〔解説〕

* 公明党の支持率が落ちています。7月の参議院選挙において公明党が全国的に敗退するように祈る必要があります。

2) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中であって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

* 「ハーザー」2月号から始まった、笹井大庸氏の提唱する「クリスチャンの天皇(制)についての公開討論」は極めて意義深いものだと思います。キリスト新聞やクリスチャン新聞の記事や論調に見られる通り、戦後50年にわたり、多くの牧師たちが福音派、リベラル派、カトリック教会などの社会派も含めて、天皇制は日本宣教の障害であると決め付けてきました。しかし、この視点は果たして正しかったのかを見なおす時期が来ているのではないかと。読者の皆さんが特に「ハーザー」4月号の行澤一人師、笹井大庸氏、小林隆利師の所論に注目されるようお勧めします。

3) 互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

4) マルコーシュ・ミッションの働きが進展するように。また、リバイバル新聞社発行のリバイバル新聞の購読部数が2600部から更に5000部へと増えるように。

5) TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように。

〔解説〕

* 朝日新聞は、2月21日付朝刊一面トップで検定中の特定教科書について「中韓懸念の『つくる会』教科書」「政府『政治介入せず』」「中韓など反発必至」などと報じました。教科書検定は政治的な思惑や外交的配慮などに左右されず教育的見地から粛々と行われるべきであるのにあえて外圧を誘導するような朝日新聞の報道は偏向していると言われても仕方がないでしょう。

6) 日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくいとめられ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

7) 文部省が平成14年(AD2002年)に実施を目指す教育改革案には青少年の著しい学力低下その他の危険が内蔵されているように思われるので、国民全体の批判を受けて、内容が改善されて行くように祈りましょう。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1) 森内閣が神を畏れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

* 新しい首相が日本国の独立性を確保する姿勢を示し、外相や財務相を入れかえ、外務省の人事を刷新し、外国に対し毅然とした対応ができる人々を選ぶことが必要です。真の国際平和は低姿勢の妥協からは生まれません。

2) 日本に大いなる悔い改めのリバイバルが起こるように祈りましょう。

〔解説〕

* 悔い改めは神の家から始まらねばなりません。日本のクリスチャンは入信した瞬間から日本国籍を脱してどの国の人か分からないような無関心の立場、あるいは日本を偶像礼拝国・天皇制軍国主義の国として裁く立場をとる人が多いようです。我々の国籍は天にあります、同時に主イエス・キリストの支配下にある日本国にもあるのです。ペテロやパウロは悪名高きネロ皇帝のために、また、長官たちのためにとりなして祈れと勧めています(ペテロ 2:13-17, ローマ 13:1-7)。まして我らの日本国は外国宣教師らの説く、単なる偶像礼拝国ではなく、また反体制社会主義者の主張する天皇独裁や搾取の行われた国でもありません。今一度、自分を愛し育ててくれている母国日本を見直し、悔い改めて裁きの座から下りて、日本国の救いのために祈って下さい。日本は危機に直面しています。

3) 日本キリスト教団の中に結成された「聖霊刷新協議会」(代表 手束正昭牧師)が、教団内にクリスマ運動に対する健全な理解を深め、聖霊の御業の大いなる進展に用いられますように。

〔解説〕

* 今年の7月高砂教会で行われる聖霊刷新協議会の全国大会に台湾の聖霊刷新運動幹事の彭徳貴牧師が来日されるとのことです。7月20日の全国大会が成功するように。

4) 日本のとりなしのために強い使命感を与えられている人が、あと1名委員の中に加えられるように。

5) 家庭内暴力と殺人が増えているようです。父親や母親が子供を殺す事件が続発しています。日本の家庭の中にイエス・キリストの救いが迎え入れられるように。

6) 医療ミス、医療事故が多発しています。医の倫理が確立され実行されるように。

〔解説〕

* 看護婦の数が増やされて、過重労働から解放されるように。

7) 臓器移植法が廃止されるように。

〔解説〕

* ある心臓移植患者の手記「記憶する心臓」(A Change of Heart)によれば、著者のクレア・シルヴィア(Claire Sylvia)はティムの心臓を自分の体内に移植されたのち、ティムの好み、くせ、習慣および記憶など、すなわち彼の人格が自分の中に移植されたことを見出すのです。これは衝撃の事実です!

8) 日本の学校において、日本の伝統を重んずる良い教科書が選ばれるように。

〔解説〕

* 戦後、日本が再び軍国主義に逆戻りするのを監視すると称して、中国や韓国は日本の教科書

に対する批判をくりかえしてきました。それは日本のマスコミ、特に朝日新聞の報道が出る中韓両国が批判する日本政府が政治介入するという悪循環の繰り返しでした。1982年(昭和57年)夏の「侵略」「進出」で揺れた教科書問題は、マスコミの誤報だったのに、当時の宮澤官房長官が「政府の責任で教科書記述を提出する」「近隣諸国との友好・親善に配慮する」との談話を発表しました。これが教科書に悪影響を与えて、ことさらに日本を卑しめる記述の教科書が増えたのです。日本の未来を担う子供たちを養成する公教育に用いる歴史教科書は、わが国の美しい伝統と文化を学び善も悪もバランスのとれた記述のものを選ぶべきで、中国や韓国の記述と共通させるなどとの要求は政治当局者がキッパリとはねつけるべきです。反って、中韓両国に反して、反日・侮日の教科書を両国政府の責任において改正するよう要求すべきです。なぜなら日本と異なり中韓両国では政府が直接教科書を作り、選定しているからです。また、歴史的に見ると、中国も韓国も国内情勢が悪化すると国民の目をそらすために、ことさら排日運動を盛り上げてきました。我々は彼らの都合におどらされてはならないと思います。

- 9) 日本経済が抜本的な構造改革を経て、真に国際競争力を持つ新産業が興されるように。そのためには、なんとしても日本が霊的にリバイバルし、日本国民全体がどんな痛みや混沌の中にあっても、決して主にある希望を失わない強靱な精神力とビジョンを持つことができるように。

[解説]

- * 日本経済破綻への七つのしるしとして、次のような危機が指摘されています(週刊東洋経済2001年1月20日号より)。

金融システム不安再燃の危機：先日の東京生命破綻にも見られるように、多額の不良債権を抱える金融機関のうち、直接償却できない企業から破綻する可能性があります。特に、株安のおかげで、資産運用利回りが、保険契約者に支払いを約束している保険金支払いの予定利率よりも下回る逆ザヤ現象に苦しむ生保の資産劣化は著しいです。

日本国債大暴落の危機：日本国債の発行残高は、現在約364兆円。これは国民一世帯あたり、約1147万円の負債を負っている計算になります。現在、国際為替市場で、日本国債の利払い率0.595%で、アイルランド国債よりも信用度の低い債券として、高い利回りを払わされています。しかも、この大量の国債のほとんどを銀行に引き受けさせており、そのための原資として、ゼロ金利政策により日銀が大量の資金を銀行に流し込んでいるという構造です。つまりは、預金者である国民の資産で国債を買わせて、国庫を支えさせているということです。しかも、ゼロ金利政策がもたらしかねないハイパーインフレは、高い失業率によって著しく疲弊した国民生活を直撃しかねません。もし、日本国債が完全に信用を失い、国際債券市場で暴落したら、大量に国債を抱える銀行、生保を直撃し、日本の金融システムは崩壊してしまいます。

アメリカの景気が急速に失速し、アメリカの銀行が大量の不良債権を抱え込むようになる?! : 実際、アメリカの株式市場は、現在、ナスダック、ニューヨーク株式市場ともバブル崩壊による暴落傾向をとめることができないでいます。

世界の投資資金、特にユーロ資金がドル離れを加速させるか?! : もし、このまま景気対策の名の下で、アメリカの長期金利が下げつづけると、ますます世界の投資資金はアメリカから逃げるようになり、ドル暴落の危機が現実化します。ドルが暴落し、アメリカ国債の資産価値が下落すると、世界最大のアメリカ国債保有国である日本は、一気に貸し倒れ状態に陥ります。

日米のITベンチャーが総崩れになるか?!

アルゼンチンを初めとする新興経済圏諸国によるの債務不履行(デフォルト)危機の再来

か?! : この要因は、特にラテンアメリカ諸国に対する最大の債権国アメリカを直撃します。

中東、バルカン、インドネシアの危機：これらの地域紛争の激化は、完全に世界経済を混乱させます。中東紛争は、石油危機を再燃させ、日本経済を撃ちます。インドネシア危機は、同国に対する最大の資本投資国である日本経済に跳ね返ります。バルカン紛争 [特にマケドニア情勢の悪化] は、またもやアメリカの軍事負担を増大させ、アメリカ財政にさらにダメージを与えかねません。

10)イスラエルの平和のために。(詩篇 125:5)

[解説]

- * ユダヤ人がメシヤ・イエスを信じて救われるように。
- * アラファトがテロリストを送り込むのをやめ、インティファダを停止して話し合いのテーブルにつくように。
- * PLO が子供たちに反ユダヤ思想を教育するのをやめ、平和共存の思想を教えるように。



《会計報告》(2001年3月1日～4月20日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	60,300	交 通 費	29,120
		印 刷 費	3,450
		資 料 費	13,290
		郵 送 費	35,560
		事 務 費	777
		振替手数料	350
		電 話 料	15,603
小 計	60,300	小 計	98,150
前月繰越	126,549	翌月繰越	88,699
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	238,023	合 計	238,023

【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	1回	瀬木久子(埼玉)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	三村二三雄(北海道)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	町田誠(千葉)	1回
佐藤節代(神奈川)	1回	吉田久子(神奈川)	1回
シスター・マリ・テレス・グレント(大阪)	1回		

【編集後記】

- * ニュースレター5月号をお送りします。トップレポートは3月号に引き続き「従軍慰安婦の強制連行は事実上なかった事」を詳述するように、委員会から要請されて、再び編集者が執筆しました。しかし、資料を集めて整理している時、日本占領時代の出来事がまざまざと心のスクリーンに再現されてきて、どうしても書かずにはいられなくなりました。
- * トムの実名は伏せましたが、私と交換した写真もありフルネームで書くこともできます。ひどい目にあいましたが、私は彼を憎んでいません。戦争は善い人をも狂わせるものです。
- * 日本はいかなる国に対してもその国を排斥するような教育をしていません。しかし、中国・韓国などは今だに露骨な反日教育を続けています。PLO も反イスラエル教育を続けていま

す。このような教育を続ければ子や孫の世代にまで憎しみを育て戦争の種まき、平和を生み出すことは到底できません。私はこれらの国々に対して、先ず自分の国を愛し、過去を清算し、他国との共存を求める教育へと方針を転換してほしいと求めたいと思います。

- * 今回の解説では、朝日新聞に対する批判や宮澤喜一氏、河野洋平氏への誤りに対する批判が多くなりました。私人に対してするものとは異なり、社会の公器である新聞や公人が公開の席で発表したことですから、プライバシーに触れないと思います。彼らが発表したことの誤りを公に認め、謝罪訂正する責任があるのではないのでしょうか。そうしないと誤報がいつまでも独り歩きして、教科書までに記載され続けていくからです。(ヨハネ 皆川尚一記)

《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2001年5月7日(月)12時30分

場所：日本キリスト教団 高砂教会

